

韓国問題を中心として（59・2・18）

後宮 虎郎（昭9文甲）

御紹介頂きました後宮でございます。先程日比野さんから御紹介頂きました様に昭和九年の文甲二の卒業でございます。で、三高時代はESSに入って英語部をやったわけですが、今日、ここへ来ておられる田畑先生とか、今日はお見えになっていませんが、ノートルダム女子大の渡辺先生とかには、先輩として大いにしごかれたものでございます。まあ私が外務省なんかに行けたのもそういう御指導があったおかげだろうと思います。私はすぐ兵隊にとられましたから、英語部の経験でもなければ外国語を喋る商売に行くなんていうことは思わなかったろうと思うのです。人間誰でも学生時代の先輩、とくにクラブ活動の先輩の方には、一生 Inferiority Complex を感じるんで、それで、きのう田畑先生にお会いしたら「今日の会合に来る」って言うっておられたから、「来ないでくれ」って言ったんですけど、来られていまして、ますます舌が重くなるわけでございます。

始めは、少し外交問題全般にお話ししようかと思つてたんですが、土曜日の午後からあんまり固いお話しをするのもなんだし、寄席の昼席でもお聞きになる様な気楽な調子で聞いてもらおうと思います。それで、新聞の切り抜きを集めた様になるよりも、三十八年外交勤務をやりましたこの体験を主としてエピソード、裏話、そういうものをお話しする方が気楽でいいのではないかと思うわけでございます。先程、日比野さんから韓国に限らずと言われましたが、そうなりますと体験談が主となるということになりまして、やはり韓国の事が多くなるんじゃないかと思いますが、その点あらかじめ御了承頂きたいと思ひます。まあ、何から喋ろうかと思案して来ましたが、このごろソ連のアンドロポフが亡くなったことから、葬儀外交、葬式外交ということがよくいわれてますので、私も経験した葬式外交の話をはじめようかと思ひます。私の経験した葬式外交というのは、この一九七四年の朴大統領夫人が暗殺されました時の事です。これは、朴大統領を狙った弾丸が外れて、奥さんに当たったわけなんです、丁度私はその場におりました、と、いうのは当日は八月十五日の独立記念日の式典の場だったわけです。外交団が全部招待されました、式場の国立劇場の二階正面の席に座ったわけです。舞台効果を非常に考えまして、韓国サイドの方で、舞台の上は皓々と電燈をつけ、そこへ大統領夫妻以下向うの要人がずらつと並び、それから観客席の方は、ライトをうんと暗く絞つていますから、後ろの方の席からピストルを持った犯人が舞台最前列へ走り寄るまで、誰も気が付かなかったのが実状です。そして、なにか乾い

た様な音が、パンパンとしたが「まさか」と思っていましたら、この観客席の聴衆の女子学生に当たったと見えて、女子学生が泣き叫びだした。すると舞台上にいた大統領のお供の連中が、ポケットからバツと拳銃をだして、こう構えて、観客席の犯人の方に向かって撃つわけなんです。流石にみな軍人出身で修羅場を経た連中だけあって、現在ではすっかり背広生活をして、私達と飲んだりダンスしたりしている時は、穏やかな紳士なんです。そういう時になると、実に西部劇のシーンそのままの behavior で、非常に印象深く感じたわけです。ところが、しばらく式が中断しましたが、すぐ大統領の演説をそのまま中断せずに済まして、一応式は済んだんです。それで私は大使館に帰っていろいろ報告なんか書いていると、犯人が日本人だという噂が街に流れているという情報がきまして、これはえらいことになったと思いました。そうなたらに留邦人の安全なんかどういふことになるかわからないと思ったんですが、しばらくしたら、アメリカ大使館の方から在日韓国人の居留民だ、日本人ではないんだということを知らせてくれて、ちょっと安心したんです。ところが、向こうの韓国人の人から見ると、在日韓国人というのは半ば日本人の様な感じで受けとめているのです。だから韓国人が韓国人をやったという感じではなく、半分日本人が韓国の大統領夫人を殺したというふうに受け取られてる。又、現に犯人の遺言状と云うのを私は見ましたけれど、「自分が、韓国語を知らないから、日本語で遺言状を書くのが残念だが」……といって、堂々たる漢文口調の名文で、日本語の遺言状を書いている。しかも、御記

憶のある方もおられると思いますが、あの時使った拳銃が、大阪の警察署から盗んできた拳銃で、当人が韓国へ渡ったのも、日本人の友達から、日本人の旅券を借りてきて使った、という様なことで、日本の責任として、これは韓国人間の事だといって、済ましておけないような状況になってきたわけです。そこで、田中総理がこのお葬式に参列することになったのですが、これで私、非常に感心したのは、外交慣例からしますと、大統領自身が亡くなった時は、総理が弔問特使として来ることはあるけれども、大統領夫人の場合はそういう慣例がない、といって事務当局は止めたそうです。しかし、田中総理は「お隣り同志の事だから、そんな慣例の事は言ってられない。」と言って、自分で進んでお葬式に参列されたわけで、これで非常に向こうの対日感情の悪化をくい止めるのに効果があつたと思いました。これはちょうどあのニクソン大統領が最初北京に行きました時に、事務当局は、朝鮮戦争の時の、どちらかと言えば勝者の立場にあるアメリカの方から先に行くのは変だ、といって止めたのを、そういうことに拘らずに、ニクソンの方が北京に出かけて行って、それが効果的に米中の国交回復に連なつたわけなんです。まあ大袈裟に言えば、そういう前例にも匹敵する田中総理の決断だつたと思うわけです。

それで今度アンドロホフの葬式に誰が行くかというのも、問題だつたと思ひまして、中国ではこの前のブレジネフの時は、黄華外務大臣が行つたのですが、その後の中ソ関係の好転を反映しまして今度は万里副総理がいつております。それからソ連が方々から来た弔電を発表する時も、

中国を一番におきまして、次にアメリカ・イギリスと並べているという風に非常に最近の中ソ関係の好転を表していると思われます。まことに洋の東西を問わず、お葬式の時の弔問の順序、焼香の順序なんていうのは時に大きな政治的效果を狙ったものだと思います。みなさんご存知の明智光秀を討伐したあとの豊臣秀吉が、大徳寺で織田信長の法要を行うときに三法師を抱いて焼香第一番の順序に来ることによって、その後の秀吉の政治的地位を確立したと言われております。

それはそれといたしまして、ともかく田中総理が来られたので、一応少し緩和された空気になりました、ところが、その当時丁度国会が、日本でも行なわれておりまして、国会の野党の質問に当時の木村外務大臣、これも我が三高マンなんです。この前亡くなれましたが、うっかり乗せられて、誘導尋問に引っかかって、北鮮の脅威なしという発言をされたわけです。これは北鮮系の政治的暗殺者テロによって、大統領夫人が、殺されたということで国を挙げて悲しみに浸っているところへ、北鮮の脅威なし、とたださえ問題の日本の外務大臣が言ったわけですから、これで反日感情がバーツとわき立ってしまいました。そして四十日間大使館が反日デモに囲まれるような事態になりました、その一番ひどかった日は、四、五十名の暴徒で、その先頭に立つ者が、腹を切って血を流しながら大使館に侵入してまいりまして、警察官の相当厳重な警戒線がひいてあったのですが、それを押し切って上がってまいりまして屋根に上がって日章旗をひきずり下ろして行っただです。その時はもう大使館中の窓ガラスから機械からみな壊されて、数千万円の損

害が出ました。ところがまた、韓国側の対応というのが非常に素早いんで、秀吉の二股城の三日築城の様に向こうの局長級の人が徹夜で現場へ出ばって、窓ガラスから壊れたタイプから計算器から全部もともどして何千万円の修復を一晚でやっちゃったのには、ちょっとこれは壊す方も早かったけど、直す方も早いんでびっくりしたものです。で、その時、私ちようど大使館の中に居りまして、下から門を蹴破って入ってくるのが聞こえたので、これはもうどうせ、大使の部屋も乗りこんでくるだろうと、どこへ隠れようか、どうしようか、日本大使ここにありと胸たたいて出たら、まあ、殺^やられちゃうだろうし、それだけの勇氣もない。しかし、吉良上野之介のように、どこか物置の陰に隠れるというようなことをしても、これは後々^{あと}国威を失墜することになるだろうと思って、もうこれは自然体でいくしかないとその時に思っただんですが、私も現代の子なんで、お国の名誉とか何とか言うようなことよりもまず感じたのは、もしここで、戸棚の中にでも隠れてるところつかまったりしたら、自分の子供が日本で友達に顔むけなんかできなくなるだろうなああと、子供がみじめな思いをすることだけはやめておこうと、そういう気になったのを思い出します。そして、対日感情が悪くなりましたんで、居留民の引揚げを考慮しなくちゃいけないなりまして、とりあえず、子供を持っている人だけ引揚げを早くさせました。ああいう時に早く引揚げ勧告を出すと、現地としては、先走ったと言われるし、何か怪我でもすると、大使、何しとったんだ、と言われることになりますんで、非常にタイミングが難しいんですが早まり過

きたと言われて怪我人無しに済む方が、遅れて怪我人がでるよりましだ、と思って、そのリスクを考えて避難勧告、退去勧告を出したわけです。私なんかのゼネレーションだと、関東大震災の時にいわゆる朝鮮人虐殺事件の記憶がありますし、でそういうことが何か対日感情が悪くなると、むこうの新聞に追憶記事で出る、ですから、そういうことの裏返しが起こるようになったら大変だというのが第一の関心事だったわけです。そしてまあ、椎名さんが結局、特使としてこられたわけですが、それが椎名さんというのは韓国に神通力がありまして、結局、椎名特使の来訪で落とし前をつけたということになるわけなんです。落とし前のつけ方にしても、椎名さんが来られて大統領の前で読まれる勸進帳の文句をどうするということでなかなか椎名さん出発できなかったわけなんです。結局、日本側はあの事件に対して初めは何らの責任を負わないと言っていたんで、これはまた韓国側を怒らせたわけなんです。結局、法律的責任が負えなくても道義的責任は負うという立場を日本が明らかにすると、韓国の方は道義的責任だけじゃないと、日本の警察のピストルを使って撃つようなことまでやってるんだから法律的責任もあるということを主張して仲々折り合わない。結局、最後はこれも田畑先生なんかに聞かれると笑われるかもしれませんが、本省からの訓令で日本はそれなりに責任を感じるといいます。そしてわざわざ、その所は英語で *in its own way* と言う意味だと言っています。ところが、韓国の方では応分の責任を感じるといふように言っているのです。すると日本の方は、応分じゃ分量

だけ言って、性質のことまで道義的責任か法律的責任かはっきりしない、と言っていましたけど、結局、韓国側が表面は「それなりの責任を感じる」でいいということで落着いたのです。ところがおもしろいのは、後で発表された韓国側のテキストを見ると、応分の責任を感じる、となっているのです。だから、私は、これはおかしいじゃないか、それなりにいうことに決まったじゃないか、と言ったら、いや「それなりに」を韓国語に翻訳すると「応分」になるんだ、と言われるわけで、同じ字を使っていますからよく似た意味になるんですが、微妙なところで違うと言われればこれは相手の国の言葉ですから、それは解釈が違うとは言えないわけで、結局、うやむやにそういうことになってしまった。というエピソードがあります。

まあ、お葬式外交はそれくらいにしまして、最近朝鮮問題につきまして、会談の形式につき色々なアイデアが発表されている。二者会談は、南北朝鮮のことです。三者会談、これは米と韓国、北朝鮮との三者会談、それに四者会談、それに日本を入れる。あるいは六者会談、ソ連と中国を加えるというように色んなことが言われ南北会談のやり方についてそういうことが言われている。私がいたときに南北会談が行なわれた先例があるわけです。それで、その時のエピソードを申し上げます。それは、一九七二年、韓国と北朝鮮の間に赤十字会談というものが行なわれていて、両者の赤十字社の会談で表面上の目的は離散家族の共同捜査問題を協議しようということになっていたのです。ところが、それだけの会談で、長く何回も／＼続いている。「どうも怪しいぞ」と思っ

たら、イギリスの大使のところへ挨拶に行きましたら、この南北赤十字会談は裏に裏ありで「あれは、南北調整、接触問題を話しているんだ」と聞かされてびっくりしたことがあります。結局、あれが実りまして、李厚洛氏トウラクといつて有名なK・C・I・A局長で日本の大使もやったことがあります。彼は三十八度線から平壤ピョンヤンへ行きまして、金日成に会い、南北統一会談あるいは統一声明、七月四日付で「七・四声明」といっておりますけれども、民族の大同団結をはかろうという様な非常な高次元の文句を盛りました共同声明を出す様になりました。私は、李厚洛氏が平壤から帰って来た時に、前から知っておりましてので会いに行つて「どうだった」と聞いたたら「K・C・I・Aの大将でふだん北鮮から入ってくるスパイなどは、虐待し、大いにしめあげているから、自分が行つたら殺されるかも知れない、あるいは拷問されるかも知れない、というので、その時に備えて青酸カリをポケットに入れて北鮮に潜入した」と言っておりまして。それで、金日成も非常にびっくりして李厚洛氏の肩をたたいて、「虎穴に入らずんば虎児を得ず」という諺があるけれども、あなたは、平壤という虎穴に入つて、そして、南北会談のアレンジメントという虎児を得たといつて非常に金日成さえも感心したということがあります。そして、南北会談がソウルと平壤で交互に開かれる様になつたんですが、ソウルで行なわれた時は、夜になると町中のビルの電燈を全部つけて不夜城の様にしてソウルの繁栄ぶりを誇示するわけです。そこで、これも内輪話を聞いたんですが、平壤のある代表が町に非常に自動車が多いのを見て「あんなに自動車

を澤山みるのは我々平壤側にみせるために、韓国中の自動車を集めて来たのか」といったそうです。それに対して韓国側は「そうだ」と「ここにある不夜城を現出しているビルも全部韓国中のビルを集めたんだ」と言つて云返えしてやったといつていたと言うのです。これで本当に平壤側がソウルは朝鮮動乱後の焼け野原だという風に内外に宣伝したのが、破れて非常にショックを受けたそうです。

それでまた後にも申し上げますが、金大中氏事件を口実にして南北会談を北鮮の方から切つてきて、なぜこの南北会談と金大中氏事件を関係づけるのかわからないのですが、ともかく会談を長く続けることによって、南鮮（韓国）の方の繁栄ぶりを北鮮の人がだんだんと耳学問、口コミで得る様になってくる、これが民族的自信の喪失につながることで理屈を構えて切ったんだらうと云うのが大体常識になっています。南北会談は、二者会談、三者会談とも言われていますがなかなかできにくいと思います。

李厚洛氏の潜入が契機となつて南北会談が始まりました時に、私のところの官邸に使っていますボーイがいうのですが「韓国政府はけしからん、南北会談をやったら北鮮にだまされるし、ひどい目に会うに決っている。」というのです。「どうしてだ」というとボーイが、子供の時に一九五〇年の朝鮮動乱がおこつて、親に手をひかれて、山中を草の根を食べ、木の根を食べ逃げまわった経験を今でも覚えている。そんなひどい目にあった北鮮と話し合いをすれば、必ずだまされ

るといった。韓国側の brass roots の人が、北鮮に対して非常に猜疑心を持っている。この頃、動乱を知らない世代が七〇%になったそうです。ですからこれがイデオロギーだけにとらわれて、格好いい北鮮の言分に惑わされることになるんだということを非常に韓国のオールド・ゼネレーション、いわゆる「動乱世代」といいますか、一九五〇年の内戦を知っている人たちが心配していると言うことです。

冒頭から、お葬式の話、暗殺の話という様な抹香臭かったり、キナ臭かったりする話が続きましたが、優雅な話、音楽と外交について話してみたいと思います。この間、レーガン大統領が来日した時、宮中の宴でも彼の出身のカリフォルニアの民謡が宮中の音楽隊で流されたということです、また中曽根総理がアメリカを去年訪問した時は、軍艦マーチで迎えてくれたとテレビでも放送していましたが、なかなか楽隊というか音楽と外交とは切っても切れない縁がある様です。一九六五年、まだ日韓国交正常化ができる前に椎名外相が、後で詳しく申し上げますが、韓国を訪問されました。私も随行していったわけです。その時、事前の打合では国交正常化の前だけでも外相が来てくれるんだから空港で君が代を吹奏するとかそういう事前の通報があったのです。それで楽しみにしていて、いよいよ金浦空港に着きましてドアをあけて出てみますと、どうも君が代ではない音楽をやっているのです。それで後で聞いてみますと、アリラン行進曲という韓国の音楽だったんですが、やはりナシヨナリストの連中は、国交正常化前に君が代を演奏するのは

けしからんということで君が代はとりやめになったんだそうです。私が二月初旬に着任いたしました親任状奉呈という式典があつて大統領に陛下から認証のある親任状奉呈をするのですが、それを済まして大統領官邸の玄関にできますと軍楽隊が君が代を演奏して儀仗兵の閲兵するわけで、私が日韓の国交正常化の交渉もやりまして、その結果がこんな風になっているんだなあと感慨無量のものがあつたものです。まあ、君が代はそれといたしまして、一番私が度胆を抜かれましてのは、親任状奉呈のために青瓦台という大統領の官邸に車で上って行きますと、何か聞きなれた音楽が聞こえてくるのです。それで何だと思つたら「戦場に架ける橋」という映画を御覧になつた方があると思いますがその映画に出る「クワイ河マーチ」なんです。あれは、日本の捕虜虐待の映画なわけですが、その主題歌をこの日本大使着任の冒頭に聞かすのかと、こちらは僻んですからこれはえらいことだと思ひましたけど、あとで長く在勤してみますと、あの曲は韓国で非常に人気がある曲でして、親兵式などの時はしょっちゅうやっておりますから、まあ特に私のためにやったのではないだろうと思ひ直したのですが、そういう様なこともありまして。現に悪意がなかったことは次の事でも判りました。朴大統領に親任状奉呈した時、建前上は通訳入りということになっていたんです。あの方は日本の士官学校を出てる人で日本語も勿論ペラペラです。ですから建前とした通訳が、側についているのですが、私が入って行くと通訳は窓の方によつて席をはずして、そして大統領は日本語で話しかけてくれました。そして、私の父が満州にお

った時に朴さんも満州にいたわけなんです。その様なことから父の事も知っていて「お父さん、元気か」と聞いて下さったりして、ですから、特に私に悪意を持っているという事はなかったということがわかったのです。それからまた音楽のことに関係いたしまして、今度は国歌とか軍艦マーチとはちがってダンス音楽のことなんです、一九六五年に椎名さんのお供をしていきました時に、一つ日韓基本条約というのだけでも仮調印して一歩前進したことにしたいということで昼からその交渉に入ったんですが、交渉がまとまらず、夜はともかく向こうの歓迎宴をやってくれたわけです。向こうの宴会というのは、まだ国交正常化前でもありますし、black-tieで、正式にはなく、妓生さんが入ってきてドンチャン／＼とやる奴なんです。ところが途中で向こうから「席を外してくれ」と「話しの続きをしたいんだ」といつてきました。それで別室に行きまして基本条約の案文を文言の点で話し合ったのです。向こうは李東元外相とアジア局長、こちらは椎名さんと私、ちょうど大統領は鎮海^{ちんかい}の方に行っておりましたので長距離電話のかけっぱなし、私の方は東京とかけっぱなし、一々東京とソウルと鎮海と連絡を取りながら、条約の案文を詰めていったのです。それで逢か彼方からは、ダンス音楽がジャン／＼と流れてくるし、こちらは固い条約の話をしているんで「歴史はまさに夜作られる」だなあと非常に非常にユニークな経験でした。「歴史は夜つくられる」ということと音楽とは関係ありませんが、韓国と国交正常化の交渉は非常にむずかしい交渉で何回もホテルで缶詰交渉をやったのです。箱根のホテルでやったことも

あり、東京のホテルでもやったこともあり、両方の代表がホテルに泊まりこんでやるのですから非常に能率的なわけです。その一つの交渉の時に韓国の大使は金東祚氏というのですが、日本の九州大学をでて日本の高文を通った人です。その人の奥さんも神戸の女子薬専かなんか出て、韓国の大金持ちの娘さんでしたが、その人が徹夜交渉しているご主人の所へ精力を付けるために朝鮮人夢を煎じてそのエキスを、差入れに来るわけです。そうすると、金東祚^{トウサ}大使は交渉を休憩して君達も自分の部屋にこいと、精力をつける朝鮮人夢をやるからといってまさに敵に塩をおくる状況でした。私は、交渉の席ではギャン／＼やりあったわけですが、それでも朝鮮人夢を休憩時間に自分のところに、差入れのあったものを我々に振舞ってくれるなんて、日韓の間と云うのはやはり何か特別のものがあるんだなあと思いました。

音楽や歴史は夜つくられるなどというのは、そう云うことに致しまして、言葉というのは外交上非常に大きな問題となります。言葉というのは外国語と云う意味ではなく、エキस्पレッション^{レスン}ということなんです。さっきも日本が大統領夫人の暗殺事件を反省しているやり方を、「それなりに」反省するか、「応分に」反省するかということでもめたといいましたが、その中で一番印象に残っているのは、国交正常化交渉の際、基本条約の仮調印のために椎名さんと訪韓したときのことなんです。椎名さんが訪韓することになりましたのは少し経緯がありまして、その少し前に吉田前総理が台湾に行かれたのです。何で行かれたかというと周鴻慶^{コウケイ}事件というのがありまして、

大陸中国から台湾に行きたいといって日本に亡命してきて、中国と色々ありましたが中国に遠慮して結局中国大陸に送り返したのです。それが契機となって台湾が在日大使を引揚げていったため、当時、日本はまだ国府を承認していた台湾との間が非常に悪くなったことがありました。それに対して一種の陳謝として、吉田元総理が台湾に行かれたのです。その例を韓国がもつてきまして、吉田元総理に来てくれと、そして日本の植民統治なんかについて悪かったと一言述べてくれと、こういうサジェスションがあつたのです。そこで、こちらはまだ今の日韓関係ではなく、李承晩ラインで日本の船がどん／＼つかまっている時でしたから、ともかく三十六年の植民地統治はさることながら、今すぐ陳謝使節を出すことはとんでもないということで蹴っていたのです。そして、向こうの方から陳謝じゃなくていいから誰か偉い人が来てくれということと、そして外務大臣が行こうということになったんです。そのかわり、陳謝などは絶対にやらないという約束で話が進んで来たのです。ところが話が進んでいくと、何か「悪かった」と一言いつてくれという様な、それじゃ、来てくれても逆効果だということになってきました、その頃前田大使がまだ参事官で長期出張で韓国にいたが、その前田君にもジャンジャンいつてくる。そこで中をとった格好で「日韓の間には遺憾ながら不幸な時代もありましたが」という文句を椎名大使が金浦飛行場につく時の声明文の中に間接的に植民地当時のことをいうことにして原稿を印刷して、同行の記者団に配つたのです。そして、外務省駐在の霞クラブの連中が真剣になって私のところ

へ怒鳴りこんで来て、「こんないい加減な、声明文では逆効果だ、もっと強い遺憾の意を表して声明文にしないといけない」ということを、その中には、今読売の重役になっている言論界の大使で渡辺恒雄氏なんかまだ若手で、張切っておりましたが、彼なんか先頭になってそういうことを云ってきました。それで、私も大衆のサイコロジに接触している言論人から見ても「遺憾ながら不幸な時代もありましたが」というのは、軟らかすぎると、弱すぎるというのなら考え直さざるを得まいという事で、直しましたのは「不幸な時代があったことを遺憾とし」という積極的な言い方をして、そしてもう一つ「深く反省するものであります」と表しました。向こうでもアメリカ大使に挨拶しても「あれはよかったよ、これで韓国側の気分が変ったよと言っております」と言われ、結局これで向こうの心理的なものが一変しまして、基本条約の方にも仮調印する事になった訳ですが、後で向こうのアジア局長が「この日韓交渉が出来た一番決定的な要素は何だと思うか。」と聞きましたので、「それは基本条約の仮調印ができたことだろう」と言いまして「いや、そうじゃない、『反省』という一言がこのトリックを、手品を、奇跡を起こしたんだ」と言いました。ですから、向こうの人は日本が植民地当時について『反省』しているという事を一言いつてほしいというのは、もう国民をあげての気持ちであったという事を今更の如く感じました。それで、この事で思い起こしますのは、この間、ドイツのコール首相がイスラエルに行った時、イスラエル人の反独デモなんかに会ってまずけれど、その十数年前にブラント首相が初め

てドイツの総理としてイスラエルを訪問しました。そしてナチの犠牲者のお墓に行っておこなつた声明文が今でも覚えていのですが「ドイツとイスラエルの間には消す事のできない歴史的な背景的事情 (indelible historical back ground) がある。将来のイスラエルとドイツとの関係は、この歴史的背景によってキャラクタライズされなければならない。」との一節です。ナチによるユダヤ人虐殺という業^{ごう}そういう業を、背負っていると言いましたが、それに似た様な所が日韓関係にもあるのではないかと思うのです。それで、中曽根さんが昨年の一月に行かれた時、それを解消するのに各国に先がけて韓国に行ったという事が非常に役に立ったという事です。ともかく、そうして基本条約の仮調印が出来たわけですが、ソウルに行く時飛行場からずっとソウルのホテルに入ってくるのに「椎名帰れ」と書いた大きなプラカードを持った人が我々の自動車の convoy の前にふら／＼と出て来たり、さらにそれをやりすごして朝鮮ホテルに入ろうとしたその入口で乞食の様なおばあさんができて、腐ったキャベツを我々の車に投げつけたり、そういった事があってこれは相当な雰囲気だなあと思いましたが、その基本条約の仮調印が済んでいよいよ引揚げる時は、町に並んでた市民の間に遠慮がちながら手を振る人の影がそんなに全部ではありませんがぼち／＼と見られましたので、この国民の気分の変わり方、敏感さというものは、大したものだということを痛感したわけです。

それから、また話を変えまして「歴史は夜つくられる」という話をしましたが、昼つくられる

歴史の経験をお話ししたいと思います。これは、昼散歩しながらの外交という経験なのですが、一九八二年、今は断絶しておりますがジュネーブでアメリカとソ連の中距離ミサイルについて軍縮交渉がニツチュというアメリカ代表とチクブンスキーというソ連の代表によってお互いの大使館の間で行なわれているのですが、一日、ジュネーブの森の中を散歩しながら機微な交渉をしまして、そして幻のジュネーブの森の物語じやなくて、幻のジュネーブの森の協定と称する協定の案文を纏め上げたわけです。ところが、各々それを本省に請訓したところソ連もアメリカもナンバーワンなので、そんなのは譲りすぎだといったので結局結実しなかったのですが、未だにこのジュネーブの森の方式はどうしても米ソ間の話し合いがうまくいかない時は、立ち帰るべき方式じゃないかと言われているわけです。それによく似た箱根の森の散歩による交渉というのが日韓の機微な段階に有りました。これは、日韓交渉の末期に箱根に両方の代表が閉じ籠って、強力な周知な交渉をしたわけなのですが、その時までに、竹島問題というのが実は未決になっていたわけです。この竹島というのは、島根県の沖にある無人島です。経済的な価値はあんまりないのですが、現実には韓国の警察官がそこに駐在している、そして自分の領土だと言っているわけです。日本の方は、これは日本の領土だといって両方譲らない。それで竹島問題を他の漁業問題とか、請求権の問題とか一緒に解決しなくては国交正常化交渉だけの食い逃げは許さないぞというのが日本側のそれまでの態度だし、日本の野党側に対しても一括解決と、竹島問題も一緒に解決する

のではなくては、国交は正常化しないとそういう風に言っていた訳です。ところが韓国側の方は、竹島問題は解決済みというか、もともと竹島は韓国の領土だから今さら、国交正常化交渉の範囲に入らないものだと言って、全然譲らず両者正面切って対立したわけです。そこで私たち考えまして、この交渉の入口から竹島問題について突っ掛かっていたら、一步も進まない、だから他の問題は全部片付けて竹島問題だけ残ったという所まで絞り上げて、そうしたところで、新しいムードの中でどちらがどれだけ降りるかという事を、決めようという方針で進んできて、いよいよこの箱根交渉の時は他の問題はだいたい片が付く見込みができてまして竹島問題だけが残ってきただけです。そうしましたら、ある日の事、さっきの九大出の金東祚大使が散歩しようと言いだしたのです。それで当時の牛場首席代表と私とむこうは金東祚大使だけで、箱根の森を散歩しながらいろいろフリーに会議のテーブルを囲んでは言えない様なお互いの事情なんかを言いあいしながら話し合ったのですが、その時に、韓国側の竹島問題に対するギリギリの線として向こうが出してきたのが竹島はもう解決済みだこれを国際裁判にかければソ連が何らかの格好で裁判に参加するようになったら、どうせ韓国に有利な態度を取りつこないからこれもこまるということですから、この竹島問題に関するギリギリの韓国の態度は竹島という名が表面にでないこと、それから、国際司法裁判所に掛けるのは絶対にこまるといことが判ったのです。そこでいろいろ徹夜交渉の中で案をねりまして、日本側は結局、日韓間におけるすべての紛争は国際司法裁判所で

はなく調停によって片付ける。そして竹島ということは言わずに「日韓間におけるすべての紛争」と、こういうことによって竹島もすべて含んでいると、こういう解釈を出したのです。この様な交渉をしている時に椎名さんが慰問にやって来られて、椎名さんは太っ腹な人だと思つたんですが、「どうせどう書いたって竹島がすぐにもどってくるのではないから二、三行なんとでも書いておけよと、国会は俺が引き受けた」といつて下さったので、こっちは非常に気が楽だったわけですが、まあそういうこともありました。向こうはそのところをギリギリに「日韓間に生ずるすべての紛争」とこういう言葉を使いたいといつてきたのです。なぜそういうかという、日韓間に将来生ずるということ、竹島問題はすでに生じている紛争だから、これは問題外なんだと、将来生ずる紛争だけ調停にかけるんだということ、日本側はそこまでしぼつて竹島がおちてはこまるんで、「日韓における全ての紛争」とこういう風にしようと、そこまで両方がせばまつてきたのです。そこでいよいよ調印の日の朝になって、結局向こう側も日本が、固いと思つたんでしょうか、李東元^{トウゲン}氏は午前中の椎名さんとの会談で一応、日本側の立場はわかつたけれども、午後に佐藤総理にお会いするから、総理ともう一度このことをお話してみるといいでしたのです。そこでこれは大変だと思つて、私は総理と李東元氏の面会の前に総理に会いまして「実はこれこれこういう事で、午前中の会議では日本側は『日韓間におけるすべての紛争』、向こうは『生ずるすべての紛争』とまで煮つまつたけれども、これ以上、譲ってもらつては困る」と、いうことを、釘を

さしておいたのです。ところが、李東元氏は調印の挨拶に來たと言っておきながら、この佐藤さんに粘り出したわけで、韓国側の案文通りにしてくれといいだしたわけです。これは、困ったことになりだしたと思つたら、佐藤総理に念を押してあるから大丈夫だと思つたらなかなかあの方も政治家というかズルシャモというか私の方をむいて、韓国側はこう言っているけれども後宮君どうしたもんだろうねといわれるんです。一国の総理と外務大臣の会談に入っているのに一局長が側から「それは困る」とその場で言えませんか「両方のトップの会談ですから何とでもお決め下さい。」としかいえようがない、ただ、「今朝までの会談の模様ではこの様になっております」と申し上げたのです。そしたら勿体ぶつた顔をして佐藤総理は「日本側は午前中の言い分でも相当譲り過ぎだと実は思っている」と「だからこれ以上は譲れない」と佐藤総理がはっきり断を下されたのです。そうしたら、これは外交の一つの方策なんですが、李東元氏が言うのです「それは判つた。では降ります。しかし、自分がこの案文を韓国へもつて帰つた時に、『日韓間におけるすべての紛争』の中に竹島問題を含んでないなあと念をおされた時は、含んでいませんと答えます。その時に、もし日本側が直ちに政府声明とか何かで、いや紛争の中には竹島問題も含んでいゝるんだと言われたら、自分の面目もなくなる、だから、後日日本側の国会審議か何かで、紛争の中には竹島問題も含まれていると言われているけれども、私が帰つた直後に日本側の解釈では、竹島を含んでいるのだと言うことは自分の立つ瀬がないからやめてくれ」と言いました。それで

佐藤総理もその点は引き受けたと言われて、落着いたわけです。ですから、現実の外交交渉というのは、最後の土壇場になると非常にそういう事態があるので、新聞がすぐそういう時に玉虫色の解釈とか言つて非難しますけれど、結局は、玉虫色の解釈と云うのがなくては、最後の段階はなり立たないという印象を私は得ております。

で、もう一つの例は、少し専門的になつて恐縮なのですが、その前にそういう風になつて、いよいよ調印式に臨むわけですが、楽隊がジャン／＼やつて総理官邸の調印式場に入つていくわけです。そうしたら、忙しいものですから佐藤総理は御前会議でどちらのテキストを取る様になつたのか、事務レベルに連絡してないのです。事務レベルの事務総長は、今、オーストラリアの大使をしている柳谷君で私に駆けよつて日本の案になつたのか、韓国案になつたのか、いったいどちらになつたのか、テキストを二つ用意して待つていると言つて来たので、これは日本側のテキストの「日韓間におけるすべての紛争」ということで片附けたという、そういう様なうら話があるのです。その玉虫色という事で面白いのは、さっきの「歴史は夜つくられる」で、基本条約をつくつた時の事なのですが、韓国側で一番問題にしましたのは併合条約とか、それに至る前の保護条約とかいう様な韓国にとって、メンツの悪い条約は初めからなかった事にしてくれということです。日本側としては、それは法理論上おかしいと、一度は有効に成立したものだから、日韓の国交正常化、あるいは、基本条約の成立後、あるいは、少し譲つても終戦の時までは有効だ

ったのだから終戦以後、あるいは、国交正常化、基本条約の成立の時以後、併合条約とか保護条約とかは無効にすると、それでいいじゃないかと、それでなくては法理上おかしいと少し三百代言的ですが頑張ったわけです。ところが、この条約交渉を英語でやっておりまして、このはじめからなかったという時は「null and void」という言い方があるんです、それで向こうは、「null and void」という表現で、始めからなかったという印象を出してくれと言うし、こちらは、ちゃんと正常化条約の成立の時以後無効になったんだという言い方をしようという事で、両方対立して纏らない。いよいよ夕方が迫ってきますんで、私が、交渉が纏らないから、これで打ち切ろうと言って、立ち上がりながらですね、「null and void」の前に、「already」、「すでに」という言葉を入れたらどうだという事を、ちよつと捨て言葉のように言ったら、向こうの代表のアジア局長が、ちよつと待ってくれ、「already」は、考える価値が有る。理屈で言えば「null and void」では、はじめから無効だという事だが「already」なら「すでに」というのだから、一度は有効になったという事で、日本側の一度は成立したというニュアンスも出る。

「already」と「null and void」とでは、純粹に理論的に言ったら、相矛盾する言い方かも知れないけど、とにかく陰にかくれてこそこそと、「already」という文句を入れて、それで「null and void」で韓国側のメンツも立てて「already」で日本側の立場も入れる、そういうことでその条約はその表現のままで成立しました。これも玉虫色の良い所なのですけど、こういうことが現実

の交渉としてどうしても必要となってくる。私がずっと前に台湾との平和条約の交渉に行く時に、当時の松本次官、これは戦後駐英大使なんかやられて、終戦時は外務次官として終戦交渉の東郷さんのバックをされた方ですが、その方に出発前にお会いして「一つだけこの難しい条約交渉に行くに当って、気を付けるべき事を言つて下さい」と、お願いしたところ、私、課長でして次席代表で台北に行つたのですが、その時、松本さんが言われたのは、「条約というものはごまかしがなくちゃできないものですよ」ということです。非常に印象深く台湾との平和条約交渉も、そういう意味の「ごまかし」を方々に散りばめた条約になっているわけですが、これを玉虫色などといつて、一々排撃していたら現実の交渉というのはとても出来ないものだと思います。

それから、もう少し五分くらい時間がありますが、それから最後に私の真昼の交渉で、ゴルフ会談の一つの思い出をお話したいと思うのですが、それは、例の金大中事件なのです。金大中という人は、野党系の政治家で反朴政客の雄たる人ですが、これを、日本に来ているうちに韓国側の人が、拉致して本国に連れていったと、それで日本の主権侵害という事で大問題になって未だに京都にもご承知の通り「金大中を考える会」なんていうのがあるわけです。人の噂も七十五日という日本人がこれだけ一つの問題を長く覚えて居るケースというのでも珍しいのではないかと思うのですが、ゴルフ会談に入る前にちよつと金大中事件の落とし前の評価について自画自讃的な事を、或いは、玉虫色の弁護の様な事を申し上げると、どうも田畑先生の前では話しくいのですが、国

際法の教科書に書いてある解決方法としては、謝罪とそれから責任者の処罰とそれから原状回復と、それから将来こういうことは致しませんという保障と、これが大体標準的な解決の方式になっているわけです。ところが、この謝罪については、向こうの國務総理が特別な謝罪使となつて日本にやつて来て、頭を下げたわけです。これも國際慣例上、現職の総理が謝罪使となつて来たということはまずないわけですし、彼が日本に謝罪使として出発する時には、飛行場には、韓国の政財界の人が数百名見送りに来まして、その屈辱の使者としてこの金鐘泌総理を見送つたのです。それで、飛行機のタラップを上がつて機内に入る時まで金鐘泌氏の奥さんがずっとあとをついてきまして、飛行機の入口のところで、金鐘泌氏がこう手を後に回してきて、そして奥さんとしばらく手を固く握りあつておりましたのが、下からよく見えたのですが、本当に感慨無量だつたと思うのです。ですから、先方としては謝罪という点では、最高級の形式を踏んだわけです。それから、責任者の処罰という点では、当時指紋が残つて逃げられない鍵を暴露した大使館の一等書記官の金東雲^{トウウン}氏を免職にしております。それから、その監督責任をとつて、李鵬大使、東大出ですが、はつきり金大中事件ということは言わないけれども更迭しています。処罰の問題も一応そういう風に片付いたと、一番の問題は原状回復ということで、金大中氏を日本に連れて帰るということとは出来なかつたのですが、この点は謝罪とか、処罰とかいう点で十分にとつたので向こうの一番痛い原状回復の点は軟禁を解くということで手を打つたのです。将来の保障はもう将来

こんなことは致しませんというのは勿論の事です。そういう事で私はやっぱり現実外交の面から見れば撃ちてしまじと云うことで、とことん教科書通りと云うことではなしに、腹八分の手打ち、落とし前と云うのは必要なんじゃないかという気がしとります。で例えば、アイヒマンなんていうのは、これはナチなんで、例が少しひどいですが、アルゼンチンからイスラエルの特務が拉致して帰って、死刑にしちやったんです。この時は、アルゼンチンが当然主権侵害問題を起しまして、アルゼンチンに特使を出して、イスラエルが謝っておりますが、現職の総理が特使に行つたといふことはないし、そしてアイヒマンを原状回復で戻すどころか、死刑にしちやつてるといふ事です。ですから、先例から見ても日本側が譲りすぎといふ事はない。さらに歴史的に見てみますと、日本が明治時代にひどい事をしてるわけですね。ご承知の閔妃事件なんていうのがありまして、当時の三浦梧村号観樹公使、外交官が先頭になつて宮中に壮士を乱入させて、反日派の閔妃を殺してしまつたわけです。安達謙蔵さんなんかその一味に入つていたわけです。そして広島で裁判したんだけれども、証拠不十分でみんな不起訴にしてしまつた。向こうの新聞は何か対日トラブルがおこると、震災の時の朝鮮人虐殺問題と、閔妃事件を持ち出すんです。日本としては、古い事といえば古い事だけれど、そういう例がある。しかも、今度の事件については、日本人に主権侵害という理論上の大きな法益の侵害はあつたけれども、金大中拉致事件については日本人の生命財産に、何も損害はおきていない。もう一つ、金大中氏が日本に來た時は、病氣療

養という名目で入国許可を受けて入ってきたのに、それが非常に活発な反朴政治運動を日本でやったわけです。ですから、入国条件に違反して政治活動をしているのを日本側は見えて見ぬふりをしていたという様ないろんな事、歴史上、あるいは彼が入ってきた時の客観情勢等と睨みあわせてみますと、この落し前というのは、日本が譲りすぎた落とし前とは見えないのじゃないかと、自分も、この交渉に関与した関係もあるかも知れませんが、その様な気が致しております。

まあ、それはそれと致しまして、ゴルフ会談というのはどういう事があつたかと申しますと、いよいよ、この金大中事件、片付ける最後の段階になりました、むこうの金東雲氏という責任者の一等書記官の処罰を、どの程度に処罰の約束をさせるかという、その詰めの問題だったわけです。で、なかなかそれが片付かないものですから、アメリカの大使が中に入りまして、これはハビブと云つて、むこうの大統領の中近東特使なんかになって、ノーベル賞の候補にまで上がった人ですが、非常に日本のおすしの好きな人でよく公邸なんかに来て一緒におすしなんか食つてたんですが、そのハビブさんが中に入って一つゴルフ会談をやれと云つて、ソウルじゃ目立つから釜山に行こうということで、釜山にゴルフに行くことになりました。非常に緊迫した段階ですから、本省にわざわざ許可をとつて、釜山にこういう事情でゴルフに行くという本省の許可付きでゴルフに行ったわけです。ところが、上手な方だったらいのですが、私なんかのように下手な者がやりますと、むこうの外務大臣、金溶植^{ヨウシヨク}と云つて、日本の大使、公使なんかやったこともあ

る人ですが、これがゴルフ場で二人のボールが同じ方向にいかないわけですね。ですから、一緒に話す機会なんか全然ないんです。で、とうとうゲームの間は何も話し出来ずに、ゲームが終って汽車にのってから、隣合せに坐って話を着けたことがあるんですが、新聞でよくゴルフ会談なんて格好いい事を云っていますが、なかなか思った様にいかんもんだという事を感じました。ところがびっくりしたのは、翌々日かのロサンゼルスタイムズに日本大使が釜山で韓国側とゴルフ会談をすると出たんです。ですから、私のスコアは極秘のプアーなスコアなんですけど、そのスコアの事は書いてくれなくて、おかげで国辱にならなくて済んだのですが、とにかくロサンゼルスタイムが、私のゴルフの事を書いてくれた。そして、一つの思い出になったわけです。私は、ゴルフの方は全然でこの三高会のゴルフ会にも皆様にご迷惑をかけるから遠慮して出ないでいるんですが、その私がむこうでアンヤンというゴルフコースがあるんですが、そこで何かのほろみにホールインワンを出したんです。そしたら、むこうのゴルフクラブに金文字でホールインワンの人の名前のリストの中へ壁に入れてくれたんで、これだけは国威を發揚したと思って大いに自慢しているんです。それから初めてそこへ行った時日の丸をクラブハウスの前に掲げてくれまして、下手なゴルフの割に非常にいい目をさしてもらったと思っています。まあ大体時間も来ましたのでこんなところで漫談を終えさせていただきます。どうも有難うございました。

（前国立京都国際会館館長）